

1月21日

高次脳機能障害の理解と支援



第17回香川脳外傷リハビリテーション講習会が開催され参加しました。11月に開設された、かがわ高次脳機能障害支援センター長の河井信行氏からの基調講演と、当事者として徳島県で活躍されている、かけはしプロジェクト代表北島麻衣子さんからの講演。切れ目のない支援の重要性と多職種専門家の連携、社会の理解促進の重要性を確認しました。

5月17日

農福連携の推進・視察に参加



農福連携推進ワーキンググループの皆さんと、高知県での障がい者の農業分野での活躍の事例を視察しました。当初は自殺対策として開始された取組みで、障がい者の自信や生きがいを創出し社会参画を実現する取組みとして行われていました。他分野の方々の連携と事業者による就労における細やかな配慮、収益性のある農業が基盤として存在していました。

会計報告（政務活動費）

令和5年度

経費の区分	金額
1 調査研究費	107,033
2 研修費	145,900
3 広報費	583,850
4 広聴費	0
5 要請・陳情活動	0
6 会議費	36,500
7 資料作成費	105,517
8 資料購入費	65,799
9 人件費	0
10 事務所費	0
合計	1,045,579円

*高松市議会のホームページで全ての領収書を公開しています。

主な活動実績 2024年1月～6月

1月4日	高松市芸術団体協議会の新春交流会	参加
7日	高松市消防出初式	出席
20日	地域づくりチャレンジ塾	参加
21日	香川脳外傷リハビリテーション講習会	参加
27日	能登半島地震被災者支援救援募金	出席
2月1日	教育民生常任委員会	出席
5日	金沢市議会議員との意見交換会	出席
9日	教育フォーラム in 高松	参加
11日	建国記念の日を祝う香川県民の集い	参加
27日	高松観光コンベンション・ビューロー交流会	出席
3月4～25	第1回高松市議会定例議会	
11日	質疑に登壇	
5日	高松市第一高等学校卒業式	出席
19日	大工町・磨屋町竣工祝賀会	出席
26日	めぐめぐ教育委員会	参加
4月10日	勝賀中学校入学式	出席
11日	弦打小学校入学式	出席
12日	保護司会総会	参加
22日	市議会広報誌検討PT	出席
5月3日	フラワーフェスティバル	参加
6日	サンポートホール高松会館 20周年記念式典	参加
15日	第2回高松市議会臨時議会	
17日	農福連携「こうち絆ファーム」視察	
18日	NPO 法人子どもの虐待防止ネットワーク かがわ定時総会	出席
25日	香川県行政書士会定時総会	出席
6月1日	アーツフェスタたかまつ 2024	参加
4～20日	第3回高松市議会定例議会	
19日	代表質問に登壇	
26日	高松市芸術士懇談会	参加
27日	NPO 法人アーキベラゴ定時総会	出席

市民相談件数

2024年1月～6月 64件【累計 2,310件】

ご相談やお気づきの点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

春風通信 Vol.22



高松市議会議員

春田 敬司

はるた けいし



オフィシャルサイト

https://www.haruta.jp

E-mail: info@haruta.jp



公式Line登録はこちら▶

春風通信 はるかぜつうしん Vol.22

発行者:高松市議会議員 春田敬司
連絡先:高松市香西東町14番地8

発行日:2024年7月
電話:087-881-6411

高松市議会議員 春田 敬司 と明日を考える。

vol.22
2024.7

春風通信 Haru kaze Communication



「人が集い、未来に躍動する世界都市・高松」にむけて挑戦!

コロナ禍からの脱却と物価高から、今、暮らしを守るための対策をまだまだ続けていかななくてはなりません。その一方で、世界全体のインフレへの転換期に応じ、本市も未来に向けた対策を講じなければなりません!

創造都市としての歩みを更に発展!

2031年までの8か年の高松市のまちづくりを計画した「第7次高松市総合計画」が4月からスタートしました。「人が集い、未来に躍動する世界都市・高松」を目指し、本市で暮らす人々や訪れる人々が心地よさを感じ、国内・外から評価される「まち」となるためには、これまで本市が文化芸術と産業の融合を意識



した創造的な取り組みを約10年間続けてきた「創造都市」としての歩みを、さらに発展させることが重要だと考えます。

ユネスコ創造都市ネットワークへ加盟!

ユネスコ創造都市ネットワークは2004年に発足され、創造性を重視している都市間の国際的な協力関係を強化することを目的としています。このネットワークへの参加は、世界に向けた情報発信と文化産業の促進に大きく寄与するため、我が公明党会派では2012年から一貫して推進してきました。ようやく機運の醸成も図られてきており、「音楽」の分野を柱に加盟申請を推し進めることが重要と提言しています。



中小企業のIT導入・DXを支援! (国の制度)

- 業務の効率化やDXの推進、セキュリティ対策に向けたITツール等の導入費用を支援
- インボイス対応に活用可能! 安価なITツールの導入にも活用可能で、小規模事業者は最大4/5補助!
- 補助額は最大450万円/社 補助率は1/2～4/5

サービス等生産性向上IT導入支援事業事務局ポータルサイト



IT導入補助金2024お問い合わせ
0570-666-376

応募方法等の詳細はこちらからご確認ください

熱中症にご注意ください!

熱中症の危険性が極めて高い暑さから市民の健康を守るため、市内の公共施設や民間施設をクーリングシェルターに指定し、熱中症特別警戒アラートが発表された際に開放します。



高松市の未来を見据えた提案と現状での課題について会派を代表して質問をしました。



6月19日の代表質問に登壇

代表質問の項目

1. 創造都市の推進について

- (1) ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟申請に向けた検討を加速化する考え
- (2) 文化芸術活動の担い手の育成を推進するための具体的な考え
- (3) 瀬戸内国際芸術祭の開催推進
- (4) 観光振興

2. シーフロントのまちづくりについて

- (1) サポート高松地区周辺エリアの一体的なまちづくりに向けた取り組み
- (2) サポートエリアのイベントの情報共有への取り組み

3. 協働推進員制度を充実させる考えについて

4. 防災・減災について

- (1) 防災DXによる安否確認を行う考え
- (2) 本市の放課後児童クラブを避難所として活用する考え

5. 学校給食について

- (1) 南部・東部エリア学校給食共同調理場の整備事業の進捗
- (2) 学校給食のあり方を広く検討する場を設ける考え

*詳しい内容はインターネット(議会中継)でご覧になれます。



Q3. 協働推進員制度を充実させる考え

「協働によるまちづくり」は、高松市の中心的な考え方であり令和5年度からは、地域担当・協働推進員が各地域の課題に対応し、まちづくりに積極的に関わる体制が整えられました。しかし73%の協働推進員が地域行事への参加依頼がなかったと回答。協働推進員の役割の重要性が強調される一方で、参加要請がないことを理由に活動が少ない現状を問題視。高松市職員の自発性と地域貢献を強く求めました。

A 職員自らが地域を愛し誇りに思うことで、自発性や主体性の意識を高め、地域課題の解決に、積極的に取り組む人材となるよう、協働推進員制度の充実に努めたい。



Q4. 放課後児童クラブを避難所として活用

地元の皆さんと一緒に防災活動を行う中で、「放課後児童クラブ」の施設を一時避難所として活用したいとの要望を頂いている。これらの教室は学校施設内にあり、避難者のニーズに応じた活用が可能である。しかし、プレハブ構造のため家具転倒防止対策などが不十分であり、専門家による点検と改善が必要と指摘。早期の対策と避難所としての活用を求めました。

A 放課後児童クラブを避難スペースとして活用することは大変有用であるため、まずは施設の安全性の再点検を行い、必要な対策を講じ、避難所として活用できるように努める。



海を生かしたまちづくり 高松市中央卸売市場の再整備が進行中!

シーフロントの一体的な開発と運用が重要!

50年後の高松の未来を展望するとき、四国の玄関口としての魅力を維持し、発展させるためには、サポート高松地区周辺エリアの価値を最大限に引き出すことが不可欠です。これを実現するためには、ハードとしての開発計画とソフトとしてのイベント開催が一体となったマネジメントが求められます。



サポート高松地区から西部の西浜地区にかけては、高松市中央卸売市場の再整備計画が進行中です。この計画は、「卸売市場と新たな賑わい創出の相乗効果を最大化するマーケットイン型地域流通拠点」というコンセプトのもと策定されています。この市場の立地は、

県道さぬき浜街道の4車線化や高松環状道路の計画により、西部・南部地域からの交通・物流の結節点となります。また、中心部への車の流入抑制の観点からも、「道の駅」としての機能が重要だと考えます。さらに、サポート高松地区との人の移動、アクセス、二次交通のデザインも重要な課題です。

またこの拠点施設は、離島との間を結ぶ新たな瀬戸内クルーズの実施など、「海の駅」としての機能も検討されています。市民プール跡地の活用方法や、春田が繰り返し訴えている高松ビジターバス(海の駅)の在り方との関係など、エリア全体のデザインが求められています。

エリア全体での情報共有と一体感のある運営

ゴールデンウィークには、サポートエリアは高松オルネの完成もあり大賑わいでした。このエリアは国や県、市、民間事業者の施設が混在しており、各施設がそれぞれにイベントを開催しています。来春には県立アリーナが完成し、益々この混雑が増すことが予想されます。

魅力あるまちとして発展するためには、エリア全体での情報共有と一体感のある運営が求められています。



水産市場と相乗効果があり、物販や飲食などの商業・観光機能を中心として「高松市場」ファン増加につながるこの場所にしかない賑わい拠点の創出

漁船の利活用
島めぐり等

※注：本イメージパースは想定であり、このような施設配置・機能となることを保証するものではありません